

第2章 湖西線（近江塩津～近江今津）

第1節 旅プラン

平成25年9月7日（土）～9日（月）にかけ、次の日程で旅行を楽しむ。

① 9月7日（土） 曇り

のぞみ303号（12号車12番D席） 新横浜 6時39発 → 新大阪 8時53分着
関西桜紫会総会・懇親会 二次会等に出席 東横イン新大阪中央口本館泊

② 9月8日（日） 小雨／曇り／晴れ

新大阪駅構内のコインロッカー（4215号）に荷物を預け、青春18きっぷ活用（4枚目）し、電車で近江今津まで移動
近江塩津＝近江今津（20.9km）踏破
近江今津から新大阪まで電車に乗り、新大阪駅構内のコインロッカーで荷物を取り、京都まで電車で移動。東横イン五条烏丸泊

③ 9月9日（月） 快晴

京都駅から米原駅まで電車（青春18きっぷ5枚目使用）で移動。米原駅のコインロッカー（7506）に荷物を預ける。そして、電車で敦賀まで移動。
敦賀＝木ノ本（23.5km）踏破
木ノ本から米原まで電車で移動。
ひかり532号（6号車9番D席） 米原 18時55分 → 新横浜 20時51分

第2節 1日目：9月7日（土）：関西桜紫会出席 晴れ

北陸本線記載のため、本節は割愛。

第3節 2日目：9月8日（日）：近江塩津～近江今津 小雨／曇り

近江塩津(9:37)～永原(11:53)～マキノ(15:33)～近江中庄(16:30)～近江今津(18:05)

昨日の天気予報から本日の歩きには、注意を要した。特に山間の歩きには。朝 5 時頃起床し、早速気になる天気予報に耳を傾ける。本日の天気予報は午後から曇り空とのことなので、安全を期し当初予定であった敦賀からの歩きは取りやめ、湖西線に切り替える。すなわち、第 365 回の記念すべき歩きは、近江塩津から近江今津までの 20.9 km に挑戦である。運よく、ホテルの食事は 7 時少し前から OK となり、10 分位ゆとりができる。ホテルを 7 時 20 分頃チェックアウト。ホテルを出る時には、小雨。新大阪駅には 7 時半頃到着。



荷物を 1 階のコインロッカー（300 円）に預ける。青春 18 きっぷの手続き後、大阪駅 7 時 50 分の電車で近江塩津駅（9 時 37 分着）に向かう。電車は 12 両編成であった。近江今津駅で後ろ 8 両を切り離す。前の 4 両が敦賀行となる。それ故、近江舞子で前 4 両に移動する。途中、「真の道」というグループの人が隣の席となり、世間話をする。「これからマキノで下車し、琵琶湖の水につかり修行する」とのことであった。特急電車の通過があり、湖西線の終着駅近江塩津駅は 9 時 37 分到着。この駅は米原からの北陸本線との合流駅でもあった。山小屋風の駅舎だった。



近江塩津駅

駅前の写真を色々撮り、永原駅を目指すことにする。危うく誤った方向（敦賀方面）に進もうとしていた。何となく変だと察知し、近江塩津駅に居られた人に聞く。一人は「わかりません。でも駅前の地図があるので確認されたらどうですか」の回答を得る。それで、周辺の地図を見る。心配した通り、反対方向に進もうとしていた。別の人にも念のため確認。地図と同意見となりホッとする。冷静に考えるとすぐわかった。山間と湖との差から。湖方面は山々ではなかった。



近江塩津駅



近江塩津駅界限

今津 18 km

何となく空間が見えたので。これまで、何度も失敗しているのでトラウマになっていたのが功を奏した。湖西線である高架した線路下を歩く。山間に向かって1~2km位続いていた。この歩きは大成功。近道でかつ安全な進路であったからだ。歩いて1時間位は傘をさしたり畳んだりしながら進む。10時23分、今津18km、マキノ12kmの道路標識（びわこパークウェイ）を目にする。10時37分、岩熊バス停（湖国バス）先で岩熊第二トンネル（10時40分）があった。トンネルを出るや否や薄日となる。国土交通省の温度計は22℃で、快適なコンディションとなる。10時54分、県道303号長浜市西浅井町八田部の道路標識前を通過。



岩熊第二トンネル 湖北サイクルロード

11時2分、“びわ湖サイクリングライン瀬田唐橋から（左回り）103km”の看板前を通過。そして、11時11分、前方をJR線がある。その先に山間に少しの青空が見える。11時14分、八田部橋（八田部川）を渡る。11時16分、自転車のグループ数人と対面する。その先に伊香消防署西浅井出張所があった。11時21分、JR線下を潜り、JR線の右側を歩く。



湖北サイクルロード 八田部川

11時22分、新栄橋（八田部川）を通過。残念ながら、この長さの終点の時期のカウント（13,414～X）を忘れる。永原の交差点を見つけ、鉄道に向かって歩く。11時38分、JR線下を潜り鉄道の左側に出る。太鼓等の音が聞こえて来る。その正体は西浅井体育館前であった。10名位のグループ（中学生もしくは高校生）が太鼓等の練習していた。大浦川を挟んで永原駅があった。京都方面に向かって特急電車が通過して行く。永原駅前橋（67歩の大浦川）を渡る。永原駅には11時53分に到着。この駅舎も近江塩津駅と同様、山小屋風の駅舎だった。



新栄橋 前方永原駅



永原駅

ここから 7.1 km先のマキノ駅を目指し、山間にするか湖畔に沿って歩くかの選択に迷ったが、少し遠回りになるが、風景のきれいな湖畔コースを選択する。暫く、大浦川に沿って歩く (12 時 8 分)。12 時 19 分、八幡神社御旅所前を通過。二頭の狛犬が印象的だった。この近郊は、琵琶湖国定公園であった。12 時 41 分、びわ湖サイクルラインの 108 km地点があった。12 時 50 分、黒崎。12 時 55 分、烏帽子の浜を通過。岩が湖面から飛び出していた。湘南海岸にも烏帽子があったが、スケールは二回りも三回りも小さかった。そして、13 時 7 分、二本松の浜前を通過。13 時 15 分、二本松水泳場前を通過。



二頭の狛犬 烏帽子の浜

13 時 17 分、長浜市から高島市マキノとなる。13 時 38 分、138 歩あるトンネルを通過。このトンネルを皮切りに、ここからトンネルが 5 つ続く。13 時 45 分、84 歩ある第二トンネル。13 時 47 分、100 歩ある第三トンネル。13 時 50 分、97 歩ある第四トンネル。そして、13 時 52 分、海津大崎キャンプ場があり、その先に 375 歩ある第五トンネルが。この第五トンネルには電灯があった。13 時 58 分、海津大崎港があり、竹生島 (ちくぶじま) めぐり観光船乗り場があった。その先に大崎寺 (毘沙門天奉安) があった。



長浜市から高島市へ



海津大崎港



この寺は西近江七福神めぐりに一つとなっていた。この近くのドライブイン吉田で遅い昼食（14時～14時35分）とする。ここのご夫妻にスマホをお見せし、食事をしながら、私のウォーキング道に耳を傾けて頂く。生憎時間帯がよく、お客がいなかったのが幸い。感謝感激。この店は365日の歩きの節目の食事場所ともなり、生涯忘れないだろう。



大崎寺 ドライブイン吉田

14時40分、びわ湖サイクルライン113km地点を通過。14時48分、義経隠れ岩があった。14時56分、琵琶湖国定公園と記した海津大崎湖岸園地があった。15時10分、竹生島の酒樽前を通過。15時33分、やっとのことでマキノ駅に到着。それにしても、駅前に繋がる通りは、300m～500mと広い通りであった。



海津大崎湖岸園地



清酒竹生嶋



マキノ駅通り



マキノ駅

15時49分、147歩ある知内川（新大川橋）を渡る。15時58分、116歩ある百瀬川橋を渡る。16時8分、45歩ある新保川橋（新保川）を渡る。16時30分、近江中庄到着。



近江中庄駅

駅前では若者がローラースケートの練習をしていた。16時57分、76歩ある新貫川新保川橋（ぬるかわ：境川）がある。近くに貫川内湖があった。17時14分、今津港前を通過。17時17分今津浜水泳場前を通過。ここから松並木が暫く続く、看板には“きれいな水と松並木”とあった。ここから今津駅まで遠かった。17時41分、浜分橋（石田川）を渡る。103歩あった。17時47分、ここでもヤマダ電機今津店を見つける。しまむらやKs電気？があった。終着の今津駅には18時5分到着。



今津浜



今津浜水浴場



近江今津駅

今津 18 時 25 の電車で京都へ。途中、この電車は京都止まりなので、山科駅で乗り換え新大阪へ。コインロッカーから荷物を取り、駅構内の立ち食い蕎麦屋でてんぷら蕎麦（500 円？）を食べ、京都駅には 21 時 2 分頃到着。東横イン五条烏丸（214 号室）には 21 時 37 分到着。本日の営業キロは 20.9 km、万歩計は 60,783 歩だった。天気が心配する一日であったが、予定通り歩いて大成功。記念すべき 365 回の歩きが結実する。



京都へ



京都駅

第4節 3日目：9月9日（月）：敦賀～木ノ本&帰宅 晴れ

北陸本線の旅日記部分は割愛

17時14分の電車で米原駅へ。米原駅18時55分発ひかり532号の新幹線で自宅に向かう。祝杯をあげながら、新幹線の旅行を楽しむ。自宅には21時53分到着。本日の営業キロは23.5km、万歩計は58,002歩であった。



米原駅

今回のシリーズ、関西桜紫会の安次富美江子さんからの心温まるメールを何度も頂き感謝感激。この励ましにより、湖西線（山科＝近江塩津：74.1km）、北陸本線（米原＝敦賀：45.9km）の踏破が完成できたと。今回は東京五輪朗報の下で365回目を達成、そして366回では日本海側の今後拠点となる“敦賀”への路につながり、さらに関西桜紫会総会でも「わいわい道中記」のPRもいい感触で終え、充実した3日間となった。関西桜紫会の各位にはこの紙面から厚く御礼申し上げたい。